

テーマ：地域学校協働活動 対象：中学生、地域住民他 主催：広島市似島公民館

公民館発！イベントボランティア支援！

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 事業プログラムの展開（令和5年度）

日程	場所	学習・活動内容
6月25日（日） 3月 3日（日）	似島公民館	【にのしまレトロカフェ～まちづくり編～】 ○高齢・過疎化が進む中、住民が気軽に集える場としてカフェに見立てた「集い」を開き、中学生が店員役となり飲み物を提供したり、昭和レコードを使ったクイズ等の企画進行を行ったりして、地域の方と交流する。
7月29日（土）	似島公民館	【似島ナイトコンサート（似島中学校音楽部）】 ○中学生がコンサートの企画・運営体験を通して、地域の方とふれ合いながら社会性を育む。また、音楽部ではない生徒はボランティアとして当日の運営を側面支援（受付・部員補助等）し、協調性を育む。
10月 9日（月） 11月11日（土）	紙屋町ヤオ① KOI PLACE 芝生広場②	【中学生による似島絵本まちなかPR①②】 ○読み聞かせボランティアとして、絵本「バームクーヘンとあっくんの旅」（R2 に公民館と地元住民等が制作）を紹介し、島の平和にまつわる歴史を発信する経験を通して、島内外の人と関わり、社会性を育む。
11月23日（木）	似島公民館	【にのしま愛ランドフェスタ（公民館まつり）】 ○地域住民と島内へ通学・通勤する者の交流の場に、中学生が運営スタッフとして参画し、学習発表や似島クイズといった企画等を行いながら、地域の学びとふれあいを通して、島全体の連帯感を育むことに寄与する。



【にのしまレトロカフェ】
接客や交流プログラムの提供



【似島ナイトコンサート】
企画・運営（音楽部以外の生徒も参加）



【似島絵本まちなかPR】
読み聞かせによる魅力・歴史の発信



【にのしま愛ランドフェスタ】
プログラム企画・進行・運営

対象	似島地区在住市民、広島市立似島中学校（生徒、保護者、教職員）、イベント参加者ほか
経費	生徒等の負担なし（各イベント等は公民館の事業費等で支出）
連携先	広島市立似島中学校、広島市青少年センター、似島保育園、にのしま愛ランドフェスタ実行委員会ほか

問合せ先

〒734-0017

広島市南区似島町752-74 （公財）広島市文化財団 広島市似島公民館
電話：082-259-1100 E-mail：ninoshima-k@cf.city.hiroshima.jp

2 事業設定の理由（事業の目的）

○似島は人口約 660 名・高齢化率 57%の離島。島内にある似島小・中学校生徒の9割が島外から通学しており、地域住民との関わりは薄い。また、公民館事業においては、人口減少と参加者の高齢化、知識吸収型学習への敬遠などにより事業自体が成立しないという現状に直面していた。そのような現状を踏まえ、座学形式から「つどい形式」への事業へ転換することとしたが、交流の懸け橋となる運営スタッフの確保が課題であった。そこで、新たな担い手として中学生に着目し、イベントボランティアとして養成することで、中学生と地域住民の交流と公民館事業への参画の双方の改善を図る。

3 事業目標

○高齢化が進む中での新たな公民館の事業スタイルとして、島民に加えて島外からの通学・通勤者も一体となって参加や参画ができる事業を展開する。
○これからの時代を担う青少年を育成する観点から、中学生ボランティアとしての活動経験を通し、充実感や自己肯定感を高め、地域活動等へのさらなる社会参画を促す。

4 事前に必要な知識や準備物

○年度初めにボランティア募集のチラシを、学校を通じて配布してもらうよう依頼する。学校及び保護者等へもその目的や意義について理解を図る。
○事業に関係する団体や機関と事前に連携し、中学生がスムーズにボランティアとして参画できるよう、日程等の調整や資料・物品等の準備を行う。

5 留意点

○事業の目的や目標、意義等について連携先や学校等と共有しておく。
○事業実施日が土日になることが多いため、学校や保護者との連携や情報の共有を行う。
○中学生が安心して当日の運営等にあたることができるよう丁寧な支援や準備を行う。

6 成果

○全生徒 33 人のうち 13 人がボランティアに登録し、イベントスタッフとして活躍してくれたことにより公民館事業の幅が広がった。
○ボランティア中学生が、地域住民と島内への通学者や通勤者との橋渡し役となり相互交流をする中で、創造力（新たな事業内容の提案）や社会性を育むことができた。
○普段は公民館を利用する機会が少ない学校の教職員や保護者をはじめ、その家族も島内外から事業への協力や参加をしていただくことができた。
○学校に関心が薄かった地域の方が活動を応援するようになった。

7 課題

○中学生との連絡手段が携帯電話所持の有無により時間がかかるなどの伝達の不確実性が生じ、細部の微調整が難しい。
○ボランティアの中学生と連携する時間が放課後等の時間に限られているため、より効率的な連携や運営の在り方について検討する必要がある。

8 今後に向けて

○新入生が入っても、職員が変わっても、ボランティアによる参画が継続できるよう、事業内容のシンプル化とリデザインを検討する。
○人口減少が深刻な中、関係人口の増加事業にも着目したい。今後も島や公民館と関係性を継続できるよう新たな活動の場を設けるなど事業を工夫し提供していく。